関係代名詞（目的格）と接触節の導入『Made in どこ？』授業案（これなんだクイズから、the eraser I use で持ち物の生産国を聞き合い、作った人へのラベルを書く）

英語教材ラボ

目的格の関係代名詞を「2文を1文にする」から始めると、that をどこに入れるかの話で終わりがちです。名詞のあとに「主語＋動詞」が続く形は、毎日使う物を説明するときに自然に出てきます。the eraser I use（わたしが使っている消しゴム）です。この授業案は、物を当てるクイズで that のある形とない形に慣れたあと、机の上の物の表示（Made in ～）を確かめて聞き合い、作った人へのラベルを書いて終わります。

この教材で解決できる悩み

- 2文を1文にする操作から入ると、that を入れる場所の話で終わる
- the eraser that I use it（目的語の重なり）、The pens I use was ～（動詞を I に合わせる）が出る
- 主格とのちがいが、形の暗記だけになる

教材の概要

項目	内容
対象	中学3年（NEW CROWN 3 Lesson 6。SUNSHINE 3 PROGRAM 6／Here We Go! 3 Unit 5／NEW HORIZON 3 Unit 5／BLUE SKY 3 Unit 5／ONE WORLD 3 Lesson 4 でも）
文法項目	関係代名詞の目的格（that／which）と接触節（名詞＋主語＋動詞）。受け身の was made in も使う
形式	授業案A4（これなんだクイズ6問・聞き合いの表・国と地域の名前の一覧つき）
所要時間	50分×1コマ
準備物	印刷のみ（投影版はプロジェクタ）・聞き合いの表（1人1枚）・小さなカード（1人1枚）・世界地図1枚（掲示用）・表示のある物を3つほど（チョークの箱など）

授業の流れ（50分）

導入：これなんだクイズ（12分）

はじめに1文だけ見本を見せます。This is a thing that we use to write on the blackboard. What is it?（チョーク）。「先生が3つ言います。3つ目まで聞いてから、札に手を挙げてください」と告げます。札を4つ並べ（投影版は画面の下・紙なら黒板）、3文を1文ずつ読みます（1つ目と2つ目で1つずつ消え、3つ目で決まる）。答えのたびに3つ目の文を板書し、消さずに残します。mistake（まちがい）・pay（払う）・chorus（合唱）・neck（首）・bounce（はずませる）は、言う前に板書します。

that のある3問（What is it?）

- Q1. This is a thing that we don’t wear.／This is a thing that we don’t put in our mouths.／This is a thing that we use when we make a mistake.　札：はさみ／帽子／消しゴム○／歯ブラシ
- Q2. This is a thing that we don’t watch.／This is a thing that we don’t ride.／This is a thing that we use after we wash our hair.　札：洗濯機／ドライヤー○／テレビ／自転車

- Q3. This is a thing that we don't read.／This is a thing that we don't use when we pay.／This is a thing that we use to change the TV channel.　札：くつ／本／財布／リモコン〇

that のない3問（What is it?）

- Q4. This is a place we don't use when we are sick.／This is a place we don't use for PE.／This is a place we use for chorus practice.　札：音楽室〇／図書室／保健室／体育館
- Q5. This is a thing we don't put around our necks.／This is a thing we don't use in summer.／This is a thing we use when our room is cold.　札：手ぶくろ／マフラー／ストーブ〇／扇風機
- Q6. This is a ball we don't kick.／This is a ball we don't hit with a racket.／This is a ball we bounce with our hands.　札：野球のボール／バスケットボール〇／サッカーボール／卓球のボール

気づき：名詞のあとの「主語＋動詞」（6分）

板書から2文を選んで並べ、1文ずつ問います。

- This is a thing that we use when we make a mistake.―we use のあとに「何を」が無い。使うのは a thing。だから that we use it としない
- This is a place we use for chorus practice.―that が無くても、名詞のすぐあとに we use（主語＋動詞）が来れば同じ形

前の時間の主格の文（例：a thing that keeps you dry）を横に書いてくらべます。主格は that のあとにすぐ動詞、今日の文は that のあとに主語＋動詞です。きまりを2行で板書します。「名詞のあとに that／which＋主語＋動詞で、どんな物かを説明できる」「この that／which は省いてもよい」。

始めの一言と聞き合い：Made in どこ？（16分）

消しゴムを1つ持ち上げて、こう始めます。

”This is the eraser I use every day. Where was it made? Let's check!”

聞き合いの表を配ります。生徒は机の上の物から3つ選び、表示（Made in ～・生産国）を探して書きます（4分）。表示の無い物は飛ばします。それでも見つからない生徒には、先生が用意した物を見せます。

次に、教室を歩いて聞き合います（7分）。A: The eraser I use was made in Vietnam. Where was yours made? B: Mine was made in Japan. And the pen I use was made in China. 聞いた物と国を表の下の段に書き、3人と話したら席に戻ります。最後に全体で Which country made most of the things we use? と問い、出てきた国に地図で印をつけます（5分）。

机間で見るのは、the eraser that I use it（目的語の重なり）と、The pens I use was made ～（動詞を後ろの I に合わせる）。持ち物の値段や新しさは話題にしません。国のよい・悪いも言いません。

出口：作った人へのラベル（12分）

形を板書します（This is the ～ I use every day.／It was made in ～.／Thank you to the people who made it.）。物が2つ以上なら These are the ～ I use every day.／They were made in ～.／Thank you to the people who made them. です。小さなカードの左に物の絵を小さく描き（This が絵を指す）、3文を書きます。3文目は主格の who です。書けた生徒は、もう1文足します（例：I have used it for three years.）。先生が全部読んでから、世界地図のその国のまわりに貼ります。名前は書きません。

本物にする一手は、読む相手を英語の授業の外につくることです。社会科の先生に先に話しておき、公民で貿易を扱う時間に地図を見てもらいます。地理で世界の諸地域を学ぶ1年生の廊下に貼ってもかまいません。廊下に貼るなら、地図の上に「わたしたちの持ち物は、どこから来た？」と日本語を1行添えます。

まとめ（4分）

板書のきまり2行を全員で読み、地図のラベルを1枚だけ読み上げて終わります。

定着・受験への接続

入試の英作文で、自分の物や好きな物を1文で説明する形につながります。次の時間は主格と目的格の使い分け（相関図クイズ）。紙の練習は定着ドリルと10分小テストへ。主格の導入は『名前が出てこない！』です。

投影版パワーポイント（Premium）

導入のクイズ6問のパワーポイント（全27枚・話者ノートつき）。Premiumのファイルです。

聞き合いの表（配る紙）

	物（the ～ I use）	Made in
わたしの物 1	the　　I use	
わたしの物 2	the　　I use	
わたしの物 3	the　　I use	
聞いた物（例）	the eraser Ken uses	Vietnam
聞いた物 1		
聞いた物 2		
聞いた物 3		

国と地域の名前

Japan（日本）・China（中国）・Vietnam（ベトナム）・Thailand（タイ）・Indonesia（インドネシア）・the Philippines（フィリピン）・Malaysia（マレーシア）・Cambodia（カンボジア）・Bangladesh（バングラデシュ）・India（インド）・Korea（韓国）・Taiwan（台湾）・Germany（ドイツ）・the U.S.（アメリカ）

学校・授業での利用は自由です（再配布・販売はご遠慮ください）